

# 学習観転換科目を支える視座と協働の学び

山中一英

学習観転換科目開発チーム

兵庫教育大学教員養成フラッグシップ大学コンソーシアム報告会

2023/03/02

## 先端教職課程カリキュラム開発センター

- 学習観転換科目開発チーム

山中一英 宇野宏幸 石野秀明 山内敏男 宮田佳緒里  
松田 充 清水優菜

## ■ 学習観転換科目

### □ 学習科学と授業のリデザイン（標準履修年次：2；単位数：1）

- 人が潜在的に持っている学びの力を引き出す環境をデザインするという学習科学の視点に立ち、他者と考えながら学ぶ授業づくり、そこでの教員の役割や評価等について学ぶ

### □ ラーニング・ファシリテーションの理論と実践（標準履修年次：2；単位数：1）

- 学習者中心の授業で求められるファシリテーターとしての教員の役割やファシリテーションに関する理論を学び、既存授業のリデザイン、グループワークやワークショップの実践等を通して、ラーニング・ファシリテーションについての理解を深めていく



## ■ 学習観転換科目を支える視座

### ▷ 浜田（1998）

- 人間はかなり未熟な状態で産まれてくる。他の哺乳類に比べてもそうである。そこにいくつかの生物学的な考察を加えることはできようが、人類がここまで世代を繋いでこられたのは、私たちが学びを重ねてきたからにほかならない
- 本来的に私たちは「学ぶ動物」なのであって、その学びによって歴史を作ってきた。そもそも、学ぶ動物である私たちが学ばない、学べないというのは自己矛盾している



私たちが本来的に学ぶ動物なのだとしたら、子どもが学べない、学べない理由は、子ども以外のところにあると考えるべきではないか



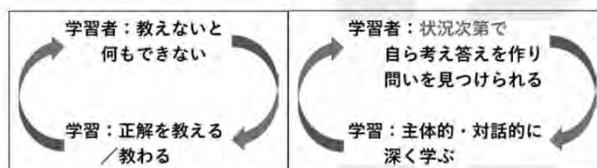
## ■ 学習観転換科目を支える視座

### □ 学習科学の視点

- 一人ひとりの子どもは、その時々レベルにかかわらず、学ぶ力を持っている
- 「人が『能動的な学び手』である」ということは、学習場面で常に正しい答えを出せる、ということの意味するのではない。そうではなく、たとえ間違っていたりつまづいていたりしても、『自分なりに考えよう』『自分なりのやり方を適用しよう』という能動性の発露だということである。そして、自らのつまづきに気づき、より良い考え方ややり方に納得できれば、自ら修正していく有能さを子どもは持っている。そのような子どもの姿が現れるかどうかは、大人が子どもにどう働きかけるか、子どもにとってどのような学習環境を作るかによって変わる。つまり、学習環境のデザインによるインタラクションの結果として、子どもの能動的かつ有能な姿が見えてくることになる」(白水・飯窪・齊藤・三宅, 2021, p.27)

## ■ 学習観転換科目を支える視座

### □ 学習科学の視点：学習者観の転換



(白水・飯窪・齊藤・三宅, 2021, p.28)

- ✓ 「令和3年度 教師の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」調査結果  
→ 学部学生、現職教員ともに「児童・生徒が教えられないと何もできない」存在だとみなしている割合は相対的に低い。その一方で、学校では学習者中心の授業が普及していない実態がある

## ★ 令和4年度 教師の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

### □ 目的

- ・ 汎用的学習材としての「事例集」の作成に向けて、学習観等の転換に関連した経験等を収集する

### □ 質問紙調査（項目内容、対象者等）

- ① 「変容的学習」に関する具体的経験の内容等
  - ・ 変容的学習：「経験の解釈や意味づけを行う際に、無批判に同化している前提や価値、信念などを構成している枠組みである『意味パースペクティブ』を再構成すること」（吉村・福島, 2020）
- ② 比喩生成課題を用いた「学び」「学習者としての子ども」「授業」に対する信念、態度、イメージ（秋田, 1996）
  - ・ 兵庫教育大学に在籍する現職教員院生を対象にFormsにて実施。100名（/約250名）から回答を得た（現在、分析中）

## ★ 令和4年度 教師の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

### □ インタビュー調査（以下は試行実施分から）

- ・ 小学校教員2名のグループ・インタビューでの語り

小学校教員A：（小学校教員Bに）学習者っていいですか、そのとき。現場って、子どもってワード好きじゃないですか。私、**学習者っていったことがない**ですよ、たぶん、現場では。子ども中心とか

小学校教員B：いま学習者中心っていいましたけど、子ども中心っていうような。学習者とはいわない

小学校教員A：（略）先生らに学習者中心の授業をしましょうって言って、わかりやすくいうと、子ども中心ですって言い換えたら、何か違うことで伝わる気がする

小学校教員B：すでに**子どもっていう言葉が、教えないといけないみたいなのが含まれる。そういう前提に立っちゃってる**気がします

◆ ダブル・ループ学習の起点となるリソース（宮田・山中他, 2023）

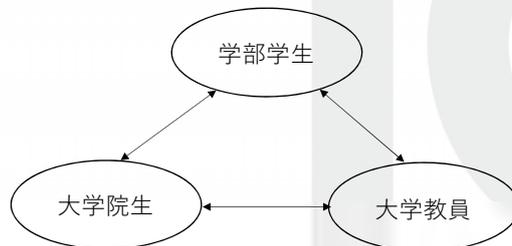
- ✓ 学習観・学習者観等の転換は容易でない
  - ・ 「認識の前提」に位置する心的概念である
  - ・ 「常識」や「あたりまえ」はなかなか疑えない
- ◇ ダブル・ループ学習：既存の枠組みや価値の問い直し，再構成
  - ① 学術理論
  - ② 他者の実践事例
  - ③ 過去の実践事例

⇒ 3つのリソースを学習環境に埋め込んだ授業デザインが求められる

■ 学習観転換科目を支える協働の学び

□ 「学びのトライアングル」

- ・ 学部生，（教職）大学院生，大学教員から構成される



\* 「学びのトライアングル」は，かつてイングランドにあったMTL (Masters in Teaching and Learning) という新入教員教育システムから着想したものである（山中, 2014）

## ■ 学習観転換科目を支える協働の学び

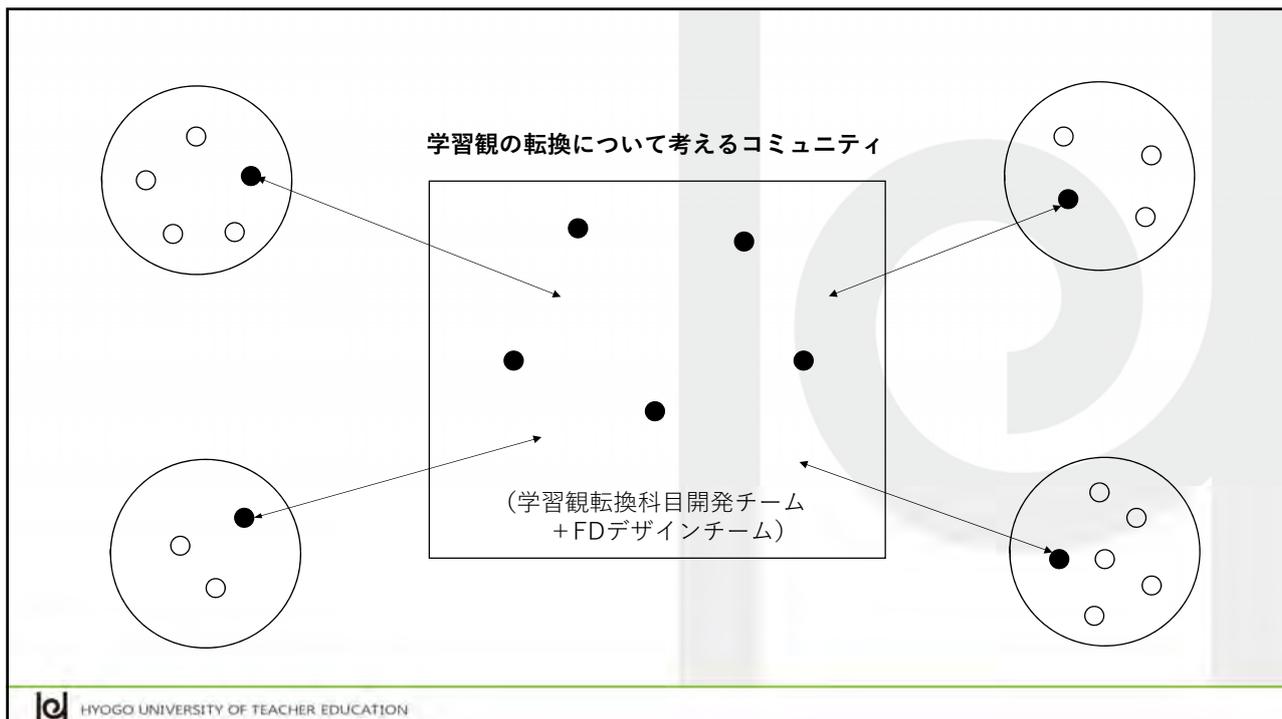
### □ 「学びのトライアングル」

- 「ファシリテーション」と「コーチング」がそこでの相互作用の基軸
  - 教育学や心理学等の学術理論等はVOD教材によって学ぶ（反転学習方式）
  - 既存の知識体系は思考の起点。知識や経験をめぐって、「聴く」「語る」「掘り下げる」「比べる」「突き合わせる」「気づく」
  - \* 2つの学習観転換科目を、学士課程の科目として開講すると同時に教職大学院の科目として開講する（検討中）。たとえば、「共通5領域に加えて大学が設定する新たな領域科目」として、「教員の協働的な学びに関する領域（仮称）」または「教員が学び合う学校文化の醸成に関する領域（仮称）」として開講する
- ⇒ これからの教師教育のなかで学部と教職大学院を有機的に繋いでいく一つのかたちの提案であり、新人教員養成と現職教員教育を一体的に展開する一つの試み

## ■ 学習観転換科目を支える協働の学び

### □ 「学習観の転換について考えるコミュニティ（仮称）」（案）

- 2つの学習観転換科目は各教科の教育法関連科目と密接に関連するため、それらの科目担当者との連携がキーポイントになる
- 各教科教育法関連科目の担当者（の一部）、学習観転換科目開発チーム、FDデザインチームの教員をメンバーとするコミュニティを形成する
- そこにおいて、「学習観の転換とはそもそも何か」「転換された学習観のもとでいかに授業をデザインしていくのか」「転換された学習観のもとで実施する新しい評価として、具体的にどのような方法がありうるか」等について学びを積み重ねていく（＝短期集中型のイベントにしない）
- この取り組みによって、本学教員の組織的かつ協働的な学びがいっそう促進されることが期待される
- 学習観の転換は多くの大学等にとっても課題。学内で試行を重ね、その後、コンソーシアムを構成する大学等の連携機関に参加を呼びかけていきたい



#### 文献

- ・ 秋田喜代美 (1996). 教える経験に伴う授業イメージの変容—比喩生成課題による検討— 教育心理学研究, 44, 176-186.
- ・ 浜田寿美男 (1998). 「学べない」子どもたち—学びの危機— 佐伯 胖・黒崎 勲・佐藤 学・田中 孝彦・浜田寿美男・藤田英典 (編) 授業と学習の転換 (pp.27-49) 岩波書店
- ・ 宮田佳緒里・山中一英・伊藤博之・別惣淳二・松田 充・溝邊和成・奥村好美 (2023). 教職大学院における適応的熟達化を見据えたダブル・ループ学習を促すためのカリキュラム・マネジメントの在り方—カリキュラム構想と1年次前期の実践の検討— 兵庫教育大学研究紀要, 62, 1-14. (印刷中)
- ・ 白水 始・飯窪真也・齊藤萌木・三宅なほみ (編) (2021). 自治体との連携による協調学習の授業づくりプロジェクト 令和2年度活動報告書「協調が生む学びの多様性 第11集—学習科学とテクノロジーが支える新しい学びの未来—」 東京大学 高大接続研究開発センター 高大接続連携部門 CoREFユニット)
- ・ 山中一英 (2014). 新人教員教育における論点と展開の可能性—イングランドの‘Masters in Teaching and Learning’ に関する複眼的考察— 日本教師教育学会年報, 23, 114-122.
- ・ 吉村春美・福島創太 (2020). 学び続ける教師に求められる学習に関する実証研究—変容的学習の視点から— 東京大学大学院教育学研究科紀要, 60, 71-81.